

2021年度 決算説明会 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q. 今年のGWは人の動きが多かったようだが、御社の状況、現在の想定を踏まえての評価は。

A. 鉄道においては、近場を中心に利用が多く、定期外収入は前年比 1.5 倍程度の傾向であった。

グループ事業においては、各事業とも売上が前年を上回り、百貨店においてはコロナ前の2019年度と比較して9割程度、ホテルにおいても、観光立地の日光、川越、成田等で稼働率が9割を超えるなど、想定を上回る結果となった。しかしながら、2020年度以降に新規開業したホテルを除く既存ホテルのみで比較すると、宴会の減少や客室単価の減により、いまだコロナ前の3分の2程度の売上にとどまっている。

4月以降、全体としては順調に進捗しているが、引き続き、事業環境の変化を注視していきたい。

Q. バリアフリー料金制度の導入時期や、運賃改定の実施の有無について、教えてほしい。

A. バリアフリー料金制度については、来春の実施にむけて準備を進めている。運賃改定については、現在、国の鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会で議論がなされているところであり、その結論も踏まえつつ、検討していきたい。

Q. アーバンパークライン5両化の効果を教えてほしい。

A. アーバンパークラインについては、車両更新の検討をしている中で、新型コロナウイルスの影響もあり、利用実態の変化を十分に調査したうえで、現在の6両編成から5両への変更を判断したものである。全体の車両数を削減するとともに、省エネルギーな車両に置き換えることで、動力費やメンテナンス費を中心に、相当の費用削減効果を見込んでいる。2024年度以降に順次新型車両を導入する予定である。

Q. 同業の中でも保有車両数が多いと認識している。車両削減によるコスト低減の効果をどのようにみているのか。

A. 当社の車両保有数は1,800両程度である。本年3月実施のダイヤ改正により、通勤車両を40両削減したほか、特急車両も6両編成で運行していたものの一部を3両編成の500系に置き換えており、将来的には伊勢崎線、日光線において500系を基本とした運行による予備車の削減を目指している。お客様の行動やニーズに見合った車両運用にすることで、全体的な保有数を段階的に減らしていきたいと考えている。

Q. 日本橋三丁目計画と有明一丁目開発計画について、それぞれスケジュールや規模感を教えてほしい。

A. 日本橋については、従前より区分所有していたビルと、その周辺物件を取得し、土地面積で約700平米程の一体地を所有している。有明については、ゆりかもめ線有明テニスの森駅すぐの立地で、約10,000平米程所有している。いまだコロナによる先行き不透明な状況が続いていることから、詳細は検討中であるが、収益性の期待できる物件であり、しっかりと取り組んでまいりたい。

以 上